

埼玉
県立

図書館だより

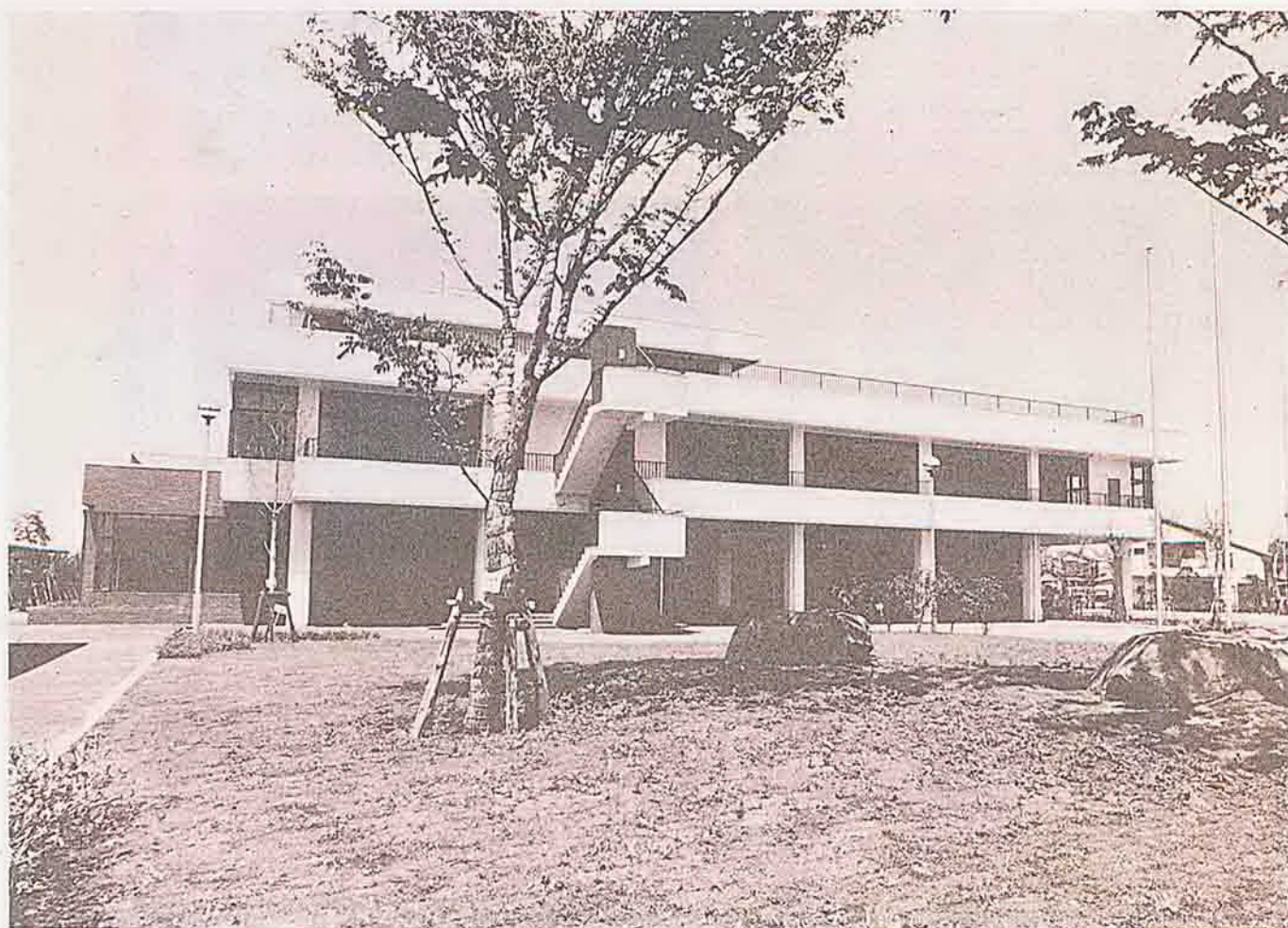
第 5 号

昭和55年7月15日

編集 埼玉県立図書館
広報委員会

発行 埼玉県立浦和図書館
館長 石川 正明
浦和市高砂 3-1-22

も	県立久喜図書館オープン……………	1～3
く	図書館法施行30周年記念講演録……………	4
じ	夏休みと読書……………	5
	管理規則の一部改正成る……………	6
	各館だより（浦和…7 熊谷…8 川越…9）…	7
	県内図書館めぐり（熊谷市立図書館）……………	10
	図書館の周辺（関東地区公共図書館の動き）……………	10
	本のひろば（原爆の本）……………	11
	おたずねください（河越茶とは？）……………	12
	題 字—高橋庄次郎氏—	



6月3日オープンした埼玉県立久喜図書館

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

埼玉県立久喜図書館

六月三日・オープン

田植えを終わったばかりの美しい水田がひろびろと眼下にひらけ、西隣には六階建ての新しい久喜市役所の庁舎が、最後の仕上げ工事にかかっている、そんななかで、県立久喜図書館は開館の日を迎えました。

前日の六月二日には、午後二時から開館記念の式典が行われました。来



開館記念式典・畑知事によるテープ・カット

賓の方々には二百名をこえ、式典会場にあてられた視聴覚ホールは満席になって、入場できない方々は、ロビーに設けられたビデオによって、式典のようすを御覧いただきました。式典終了後、畑知事による記念植樹、テープ・カット、地元有志による邦楽演奏のアトラクションがあった、そのあとは華やかに祝賀パーティが開かれました。

記念植樹には「多羅葉」(タラヨウ)が選ばれました。多羅葉は慈光寺にある天然記念物の巨木が有名ですが、葉の裏に鉄筆などで文字を書くとき黒く浮き出るので、インドで写経に使った「貝多羅葉」(バイタラヨウ)に似ているということから名づけられた名木です。

いよいよ六月三日は午前九時を期して奉仕業務が開始されました。この日を迎えるために、二年二か月の歳月をかけて収集・整理した資料は全部で約八万冊、二万冊の児童書は一階の子ども室に、五千冊の参考図書、三千冊の郷土資料、一万冊の文

六月四日(日)午後、にぎやかな子ども室



庫本、新書を含む成人向資料約六万冊は、二階の公開図書室に配架され、利用を待つばかりにととのえられました。

久喜市をはじめ、近隣の市町村の住民の皆さんが、この図書館の誘致運動に熱心に参加されたというだけあって、初日から出足は好調で、入館者は七百十五名、六百十八名の登録、貸出冊数は一千百十四冊を数えました。新聞・雑誌のコナラーは終日にぎわい、さっそく参考調査のカウンターに資料調べを申し込む方、



県立久喜図書館と県木「けやき」を配した記念スタンプ

リクエスト・カードを差し出す方などもあって、順調なすべり出しを見せました。予想以上に忙しかったのは子ども室で、午前中は子ども連れのお母さん方、午後の下校後は、押し寄せた小・中学生で大混雑となり、ロビーに仮りの受付カウンターを設け、記入機を並べて応待しなければならませんでした。

は迷い子が出ました。一階の子ども室で本を借りたあと、二階の公開図書室に上がり、それまでいっしょだったお父さんとはぐれてしまったのです。女の子は大きな絵本を二冊かかえて、声をあげて泣いていました。三階の事務室に連れて来て、放送でお父さんを探しました。お父さんは書架の間をめぐっている間に思わず夢中になって、つないでいた子どもの手を離してしまったというのでした。

土曜・日曜は集会室で地元郵便局の切手展と切手教室が開かれていましたし、視聴覚ホールでは映画会やレコード・コンサートも開かれていたので、文字通りお祭りのような人出で、二十八台分の駐車場はたちまち満車、自転車は一時四百台にもなりました。

午後五時閉館、後始末をすませたときは、だれも口をきくのがおっくうなほどでしたが、しかしその疲労感は意外にさわやかなものでした。

六月三日(火)から八日(日)までの利用状況は次のようになりました。リクエストも、十七タイトル、五十一冊を数え、リクエスト・カードを用意しておいて本当によかったと思っています。

日	曜	入館者数	一般				子ども				調件	査数	コビイ枚数
			登録数	貸入	貸出	貸出	登録数	貸入	貸出	貸出			
3	火	715	283	292	543	335	320	571	8	1			
4	水	640	195	173	344	233	250	494	20	15			
5	木	392	119	183	314	105	179	250	15	29			
6	金	361	102	133	217	102	218	327	3	10			
7	土	1,291	250	300	547	399	563	1,041	7	45			
8	日	2,410	518	533	953	486	789	1,447	18	49			
累 計		5,809	1,417	1,614	2,918	1,660	2,319	4,130	71	149			
一 日 平 均		968	245	259	485	276	387	588	12	25			

これまでのところ久喜市内の利用者が大半を占めており、今後は隣接の市町村からの来館者が多くなることと思われまます。次の土曜・日曜はどうなるか、やはり満を持して、全員出勤して待機することにしていきます。

障害奉仕課が担当している視覚障

害者のための医学書の録音テープ製作の打合せ会、朗読の講習会なども六月十日から始まりました。六月二十一日からは、十一月まで八回の予定で、児童奉仕ボランティア養成講座が開始されます。この講座は、図書館の新しい児童奉仕のあり方を追求する事業で、まず地域のお母さん方五十名を対象に、子どもの本の選び方から、ストーリー・テリング、読み聞かせ、紙芝居の仕方など、主として実技についてしっかり習得していただき、地域に帰って、それぞれ



六月四日(日)午後、前庭にあふれた自動車・自転車

れにグループ活動を展開し、児童の読書推進運動のリーダーになっていただくという計画です。これを年々くり返すことによって、子どもの読書運動の輪がひろがっていくことを目指しています。三階に設けた子ども読書相談室は、この運動の拠点ともなるよう、必要な資料約一千冊を配架する予定です。

六月十二日から十八日まで、県立博物館の巡回展「埼玉の近代美術」が開かれます。

近隣に図書館の少ない地域の文化センターとしての役割りを背負って開設された久喜図書館は、「くらしのなかに図書館を」をモットーに業務を開始したばかりですが、県民の皆さん、既設図書館の皆さんの御支援をいただきながら、幅の広いサービスを果たしていきたいと念願しています。

なお、移動図書館車はつこうで昭和五十六年度からになります。が、地域内の図書館を巡回する協力車、県立図書館をつなぐ連絡車は、六月から運行を始めました。地元の図書館を通じて、他の図書館の資料も利用できる仕組みを、大いに利用していただきたいと思います。

(六月十二日記)

図書館法の歴史的評価と公共図書館の展望

東京大学教授 裏田 武夫

草の根の図書館の整備

図書館法ができて三十年、ここでもう一度初心にかえり、図書館の近代化とは何かということについて考えてみたい。

近代化ということは結局、草の根の図書館を全国津々浦々に整備するということが、これが一番大切なことである。いずれにしても、図書館情報資源とは、われわれが育てていかなければならない資源であり、後天的にわれわれが利用方法を身につけなければならぬものであって、他の水や空気や米のようにただ採取すればよいというものは全く違つたものである。

全国的図書館サービス体制

この図書館情報資源というものを草の根のレベルで、くまなく普及してゆくということは、迂遠なことであるがこれなくしては近代化は考えられない。国民の図書館情報資源への要求、その構造は、第一次サービス、第二次サービス、第三次サービス、

の三段階が考えられるのではないだろうか。まず第一次サービスとは、例えば医療制度に見るように、

第一次医療、すなわち、日常市民の様々な症状について相談に応じられる、街の開業医の役目、これは非常に大事だが日本ではまだ制度的に固定していない。図書館としてみると、第一次サービスレベルは、第一線図書館、触角図書館であって、これが進んでいる国は英国やデンマーク等である。英国の触角図書館約一万二千箇所に対して日本は約一千四百箇所であり、少ない。しかも英国はほかにサービスポイント制度をとっている。

日本はいま非常に急激な社会変革期にのぞんでいる。その一つは高学歴化である。今後公共図書館は大学の学習図書館とほぼ同じような、サービス要求されるようになる。特殊な研究資料だけが、大学図書館利用で、学生なども公共図書館にまかせるといふ時代がくるだろう。俗に公共図書館のスポール現象が起つ

てくるのではないかと考えられる。そうすると逆に高度な専門書などが、公共図書館に強く要望される時代となり、とても単一館では守備できる範囲ではない。

次に第二次図書館情報サービスであるが、例えば県立病院、団体の病院等総合的な特殊な検査や手術・治療などできる設備を持つ病院、要するに開業医では相談に応じられないものの守備範囲、図書館でみれば、県立図書館や指定都市のそれも中央館的なものが、第二次サービスに当る拠点となるのである。

第三次サービスの段階は、例えば国立の医療機関（国立のガンセンターなど）や、特定領域の奥深い研究、相談もできる大学病院のよう、国会図書館、特に大きい大学図書館や日本科学情報センターのよう、全国的に書誌や目録なども作る、サービスもする施設、特に日本科学情報センターでは、電話の公衆回線で文献検索サービスも普及している現状である。この第三次サービスは例えば円錐形の尖端をなしているべきである。しかし当然第二次サービスが一番大きなエネルギーと設備の配慮が必要である。とにかく下駄ばきでいって借りられる所、そこ

でまにあわない時、第三次サービスが受けられるような構造が必要である。次第に第一次、第二次、第三次と円錐形のサービス構造は、特に基底部分が必要であろう。

変動する社会と今後の方向

また、高学歴化・高年令化・熟練化現象の中で、誰が高度な情報を与えらるか、当然公共図書館だと思ふ。まだまだ様相が一変する位に変わらねばと思う。円錐形の基底部、第一次第二次サービス等かなりの部分を公共図書館がになわなければならないだろう。図書館法も三十周年を画した今日、実践的にも理論的にも法を変革していかなければならない。まず全国的な図書館ネットワーク化を盛り込む必要がある。国庫補助についても最低基準など抜本的に考えること。次にアクセス権や資料利用の自由、資料公開の自由等一括して法に盛り込む必要がある。特にビデオやコンピュータ、マイクロフィッシュ等日夜新しい情報メディアが出てくるが、これらを法的に裏づけていく必要がある。さらに専門職員制度の確立である。多館種、多機関、多施設との関係がよいものとなつていく。そこで図書館がもっと動きやすいようにする方法が入れられなければならない。

(講演抄録)



もうひとつの「夏」

みつけた？

「ブック・レビュー」夏休みと読書

夏休み—この言葉を聞くと大人になつた今でも何か胸弾むものを覚える。それは、学校という枠から放たれてのびのびと自由に疲れ果てるまで遊べる時であり、普段見ることのできない白く波頭砕ける本物の海へ、たとえ数日ではあつても連れていってもらえる時であつた。七月二十日になると、先生から渡された通信簿を大事にかばんの中にしまいこみ、その日から決まって始まる夏祭りのお囃子を遠くに聞きながら、これからの四十日間どんな事があるのかしらと夏休みへの期待で小さな胸をいっばいに膨らませながら校門に別れををつける。幼いころの夏休みは確かにその一日一日が記憶の中できらきらと輝いている。

夏休み—この言葉を聞くと大人になつた今でも何か胸弾むものを覚える。それは、学校という枠から放たれてのびのびと自由に疲れ果てるまで遊べる時であり、普段見ることのできない白く波頭砕ける本物の海へ、たとえ数日ではあつても連れていってもらえる時であつた。七月二十日になると、先生から渡された通信簿を大事にかばんの中にしまいこみ、その日から決まって始まる夏祭りのお囃子を遠くに聞きながら、これからの四十日間どんな事があるのかしらと夏休みへの期待で小さな胸をいっばいに膨らませながら校門に別れををつける。幼いころの夏休みは確かにその一日一日が記憶の中できらきらと輝いている。

午後学校はプールに泳ぎにいく。プラタナスの木々に囲まれた小さな小学校のプール。紅白の帽子を着けた子供たちは泳いだり、もぐったり、果ては友達同志帽子をとり合

い、大きな笑顔を帽子を被った当番の教師に大声で怒られる。二時間などすぐに過ぎてしまふ。プールからの帰り道、青々と広がる水田に夏

風が吹き渡たり一瞬種の裏葉をきらきらと光らせたり、遠い空高くいつのまにか涌き出した入道雲が大きくなっていくのをみながら歩いていく時、突然、ふっと何ともいえない虚脱感に襲われ立ちどまってしまう時があつた。自分の心がどこかへいってしまふような、現実から一歩宙に浮いてしまふような奇妙な感覚、今から思えばただの疲労感であつたのかもしれないが、必ずといっていい程、こんな状態になるのだ。しばらくぼうつとしていて、と、ポツリと落ちてきた雨が俄に本降り夕立ちとなり、遠くで雷がなりだし、追いつたてられるようにあわてて家へ向かつて駆けだすのだ。

家について着換えをし、風が通るように戸を開け放つた縁側にころりと横になり竹籬越しに雨音を聞きながら、さっきのあの感覚が体に残っていて気持ち落ちつかない。

こんな時、いつも無性に本を読みたくなるのだ。本を読むことで、どこに流れていってしまうかわからない自分の心をせめて繋ぎ止めようとしたのかも知れない。父母が買ってきてくれたあづき色の表紙の世界名作物語全集のうち、どれか一冊を

書棚から抜いてきてページをめくる。知らず知らずその中に引きこまれ、やがて主人公と一緒に物語の中の新しい夏を生き始める。或る時はイギリスの夏であり、或る時は遠い昔の日本の夏であつたりする。これら本の中の夏は現実に生きた夏以上に鮮明な印象を今に私の中に残している。

アーサー・ランサム氏の「ツバメ号とアマゾン号」「ツバメ号の伝書バト」に登場する六人の子供たち、ジョン、スーザン、ロジャ、ティティ、ディック、ドロシーたちと過ごしたイングリッド北部に広々とひろがる湖や川での夏、帆船を操縦する競争、金銭を求めての探検、自分たちだけのキャンプ、その生活の様子、それは細かく具体的に描かれていて、実にリアルに彼らと一緒に充実した夏休みを過ごすことができた。

「十五少年漂流記」として知られるベルヌの「二年間の休暇」も大きな自然の中での冒険物語である。ニユージーランドの学校の生徒十五人が夏休みを利用しての沿岸航海を計画するが少年たちだけを乗せた船はとも綱をとかれ二週間漂流の末孤島に漂着する。彼らは二年間の間、様

管理規則の一部改正 なる

昭和五十三年から二
か年にわたり検討・協
議を続けてきたが、去
る五月三十日に埼玉県
教育委員会規則第十六
号によって公布され
た。

これは、六月一日、
県立図書館の竣工
・開館を機に、県立図
書館間の問題、市町村
図書館との関連、エリ
ヤの問題、各館の特質
等々検討を加え協議を
重ねた結果の部分改正である。

利用者にとって関連の深いいくつ
かの改正点は、次のとおりである。
(損害賠償) 入館者と資料の館外貸
出しを受けたものは、自分の過失で
図書館の施設や設備を損傷したり、
備品や資料を無くしたり壊したら、
修理し、その損害を賠償する。

(課金変更) 館内奉仕部では、浦和
が収書課、整理課を置き、参考調査
課、児童奉仕課は四館とも共通であ
る。館外奉仕部では、川越と久喜に
障害奉仕課を置き、久喜を除く三館
には、移動奉仕課が設けられてい
る。

(参考調査) 図書館資料の利用相談
や研究調査には、口頭・文書・電話
等の方法で依頼することができ、
また、参考調査の範囲なども、三点
ほど新しく加えられた。

(移動図書館) 団体利用等の利用が
二百冊から五百冊までになった。

(貸出文庫) 同時に利用できる図書
が三セットから六セット以内になる
(視聴覚資料) 場合によっては、個
人の館外利用もできるようにした
視覚障害者にも、対面朗読、録音
テープ、点字図書の貸出しを行う。

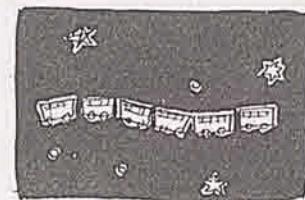
々な困難を乗り越え友愛に満ちた集
団生活を送ってゆく。沈着冷静なゴ
ートン、勇気ある少年ブリアンら
と共に、自然と闘い島にやってきた
悪者と対決した夏、学校という場で
はとてめめくり合えない自然の中で
のスリルに満ちた冒険と友情をこの
物語は満喫させてくれる。

夏休みを利用してベルリンのおば
あさんを尋ねていく少年エミールは
途中で誰かに大切なお金を盗まれて
しまう。が、ベルリンに着くやいな
や、知り合った少年たちを組織して
見事犯人を追いつめつかまえる痛快
なクレストナーの物語「エミールと探

偵たち」。離婚した両親に一人づつ
もらわれた双子の女の子、ロッテと
グレイゼが、夏休みに偶然キャンブ
場で知り合い、こっそり入れ替って
両親のもとへ帰り二人の努力で両親
を和解させる物語「二人のロッテ」
。ユーモアに溢れた温かい筆致の中
にドイツの子供たちの夏休みのそ
くことができる。

日本の本で忘れられないのがいぬ
いとみこ作「木かげの家の小人た
ち」。何屈たたくなく遊ぶ森山家の子
供たちの夏休みのシーンから始まる
この物語は、イギリスからやってき
た「小さな人たち」バルボー一家と

森山家の人々との関わりの中に、い
やおうなく入りこんできた戦争を描
くことによって強い反戦の気持ち
込めたファンタジーの作品。疎開先
の野尻湖でアイリスやロビンやアマ
ネジャキと過ごした重苦しい夏。ひ
とりでに歩き出
すいすを追って
いった直樹と一
緒に推理小説の
ような構成にひ
きこまれ、つき
つめていくと広
島の原爆の日に
直面しなくては



ならなかった松谷みよ子作「ふたり
のイーダ」。

もうこのあたりでは見えないかも
知れないが、ケンタウルス祭りの
夜、天気輪の下でジョバンニと探し
た乳色の銀河。いつのまにか大好き
なカンパネラも一緒に小さな列車
に乗っている。ピカピカ光る青白い
星空を白鳥座やさそり座を眺めなが
らどこまでも旅してゆく。宮沢賢治
の童話の空想的で宗教的な世界の入
口も夏に開かれていく。

薄暗い光の中で本の文字が読みに
くくなり、物語の世界からふっと現
実に戻ると、あたりはもう夕暮れ。
サンダルをはいて庭に出ると雨に打
たれた樹々の葉はつややかな緑に光
り、雨のあがった西の空は茜色に染
まっている。どこからか豆腐屋のラ
ッパの音が聞こえてくる。

思えば物語の中の夏は現実以上に
鮮やかである。働くようになり、わ
ずか数日の夏休みではあるが日常の
様々な思いから自らを解き放ち、さ
さやかな自己実現のために、また本
の扉を開けてみようと思う。あなた
も一冊の本を手にとってみませんか。
あなたが自身のなつかしい夏がそ
の中に広がっているかもしれない
(尾迫明子・県立浦和図書館)

浦和

子供にとって昔話とは……

児童文学講座小川捷之氏の講演から

△子供の本の領域では、詩とか口
承文芸がもてはやされている一方、
現実の社会では、登校拒否や家庭内
暴力などの病的な現象も目だってい
ています。このような現象が、なぜ
起きてくるのでしょうか。一見何の
脈絡もないように思われるふたつの
現象が、昔話を論じることによって、
説明されてくるように思われます。

現代人はどこかで、自己疎外をし
て生きています。つまり外面にばか
り目がゆき、自分の心の内面を見な
くなくなっています。作品を読んで感動
する、空想をめぐらす、考える、と
いうことが心の内面の成長にどんな
に大切なことか。この内面の力がな
くなってしまうと、自分自身の欲求
を押える力もなくなってしまういま
す。素直に自分を感じ、生きてゆく
ことが出来なくなるとき、心の病
にとりつかれてしまうのです。

子供が育つてゆく過程で、昔話が
大切なのは、子供の心の深いところ
を耕し、豊かな心を育て、心の支え
となってくれるからです。

昔話の主人公に女性が多いというの
も、女性が母となり子供を育ててゆ
く過程で原初的なすべてを育む土壌
のような安定感を発揮するからなの
でしょう。グリム童話の「ヘンゼル
とグレーテル」では、いくつもある
モチーフの中で、森の暗さ、深さ、
気味の悪さが、心の内面の無意識の
世界の恐ろしさを語っており、「い
ばらひめ」の一〇〇年の眠りとは、
眠ることによって、外面的には何に

もしていないが、内面的な仕事には
げんでいるということの暗示である
とおもいます。

このように、モチーフを解明して
ゆくことにより、昔話が子供達に、
人生に立ち向かうための力を与えて
くれる、ということが理解出来るの
ではないでしょうか。▽という講
演。百三十五名の母親ら、地域文庫
・図書館のメンバーが参加して、熱
心にお話に聴き入った。



数年前、有吉佐和子の作
品が機縁で、老人ボケが話
題になったことがある。病
気によるものは別だが、本
に親しむことが多い人はボ
ケることが少ないようだ。
多年当館に点訳奉仕された
ことで、第一回ともしび賞
を受けられた古宮豊治さん
は、明治22年生れたから、

なんと今年91歳になる。し
かも今なお点訳にはげんで
おられる。古宮さんに次ぐ
実績をもつ渡辺喜美子さん
は、75歳になる方である。
点訳ということは、ただの
読書以上に頭を使う。頭を
使うからボケない。古宮さ
んや渡辺さんがいつまでも
若いのは当然だろう。

おしらせ

- ◇常設展示 2階入口左側
8月1日原子の火 9月1日強
いられた故郷
- ◇映画会・コンサート 1階
鑑賞室
- 第二土曜映画会 午後1時30分
9月13日「さくらんぼ坊や」・Ⅱ
10月11日「あしたの空は青い空」
ぼくの剣道日記
- 第三土曜レコード・コンサート
午後2時
8月16日「夏休み親子音楽会」
楽しい世界の子どもの歌名曲集
9月20日「パロック音楽の魅力」
10月18日「ピアノの詩人・ショパ
ン特集」

◇埼玉県移動図書館

三十周年記念式典を開催
本県の移動図書館活動が昭和25年
9月13日に開始されて以来、今年で
30年を迎えます。この足跡を回顧し
て、全県下関係者により、記念式典
を開きます。

なお、当日、三十周年記念誌「埼玉
の移動図書館」を無料で配布いた
します。

日時 昭和55年9月13日(土) 10
時
会場 埼玉会館小ホール

熊谷

著者を囲む会

「魅力ある吟子の生き方」を語る渡辺先生
ユーモアあふれる話しぶり 佐藤先生

ふだんは活字の上でしかお目にかかれぬ作家を招いて講演を聴いたり、対話をしたりして、中広い教養を身につけると共に、県民の読書の輪をひろげようというのが、著者を囲む会の目的です。

昨年度は、秩父市と本庄市で、それぞれの市立図書館の協力を得て、次の二つの会を開催しました。

九月二十日 秩父市婦人福祉会館
花埋みについて 渡辺淳一先生

三月六日 本庄市中央公民館

私の考え方 佐藤愛子先生
両会場とも熱心な参加者で超満員となり、秩父では室外で立聴きする

地域のおかあさん方に、母子一体の読書室として親しまれ、十年目を迎えました。地域の市町村立図書館が日進月歩の如く充実していく現在、県立図書館として、どのように受けとめ、どのようにサービスをしていったらよいが見直さなければなりません。

そこで母親こども読書室では、母

人も出ました。又本庄では五〇〇名を超えて会場を移動する程の盛況ぶりでした。

「花埋み」は埼玉県妻沼町出身の女医一号 荻野吟子の生涯を描いた物語りです。これを書くに至った動機を先生は次のように語っていました。

「女性にとって閉ざされていた門戸に挑戦し、本邦初の女医となりながら、このまますすめば当然、近代女性史に、さん然と輝く足跡を残したであろう吟子がたった一人の男性と北の原野に埋もれてしまったその勇敢で奔放な生き方に限りない魅力

親用図書と分離して、幼児、児童に夢をあたえるにふさわしいような閲覧室に改装し、こども専用の読書室

衣変えした母親こども読書室

として活動することになりました。資料は、幼児向けの絵本・こどもの雑誌・学習用の参考図書や図鑑類・読物・中学生向けの文学書にい

を感じたからであり、もし功成り名を遂げていたら恐らく書かなかったであろう。」……
本庄では佐藤愛子先生に「私の考え方」という題で講演をしていただき



たるまで、幅広くそろえました。幼児も登録して、三枚の貸出し利用券が作れます。

こども読書室では、こどもの興味と関心をさそう魅力のある資料を集めていますので、地域のこどもたちに、大いに利用してもらいたいと願っております。

力のある資料を集めていますので、地域のこどもたちに、大いに利用してもらいたいと願っております。

お知らせ

映画会 1階鑑賞室
8月22日(金) 午後2時から
「ジャングルブック」
9月12日(金)

「親の扶養を考える」
10月9日(木)「幾山河の歌」
名作映画鑑賞会 1階鑑賞室 午後1時30分から 10月18日(土)「惜春」
フィルムコンサート 1階鑑賞室
8月23日(土)午後1時30分から
「ビートルズシアスタジアム」その他

ステレオコンサート 1階鑑賞室
12時15分から 9月17日(水)ボブ・ディラン「血の敵」
芸能鑑賞会 1階鑑賞室 午後2時から 8月27日(水)「吟詠傑作選」
10月22日(水)「長唄曲選」

川越

「新しき村」の美術館・図書館

「武者小路実篤氏の遺業みのる」

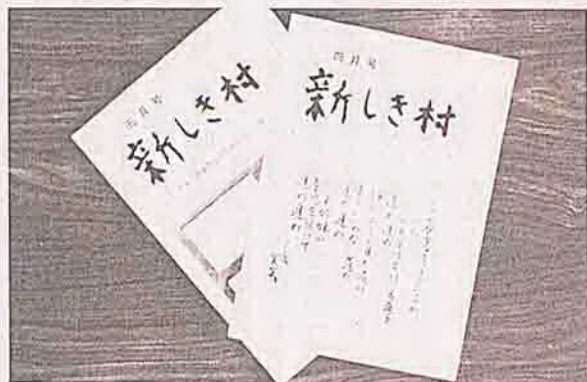
近く「新しき村」に美術館が建設されます。このなかに図書館も併設する予定です。

この「新しき村」とは、入間郡毛呂山町にあって、武者小路実篤氏が提唱したもので、大正七年に宮崎県に誕生し六十三歳の歳月を経過しています。現在地は昭和十四年に建設されました。

人間を愛し、愛される人間、自然を愛し、自然とともに生きる「社会共同体」で、武者小路実篤氏の生涯をかけた大事業です。氏の亡きあと、その精神を受けつぎ発展を続けています。

この「新しき村」では、月刊機関誌「新しき村」を発行し、現在、第三十二巻と五号に至っています。

また、村のことを知りたい人のために「新しき村五十年」(昭和五〇年)(五〇五頁)が発行されています。村の発展の経過を知る貴重な本で、村の事務所で購入できます。村の建設についての、武者小路実篤氏の理想像(目的と精神を含む)



この道を歩く(四五六頁、一〇〇〇円)という標題で、角川書店から発行されています。
こうした書籍が「増田荘」とすぐうしろの建物に所蔵されています。美術館完成とともに新しい図書館に収蔵され、一般に公開される予定となっています。

この新しき村へ行くには、日高町

から毛呂山町を通る飯能・小川線の道路の町境近くを南へ入り、八高線をこえたところで、入口には、道の両側に標柱が立ち、その手前に「この道より我を生かす道なし、この道を歩く」と書かれた塔が立っています。

村内生活者は約六〇名、村外会員約五〇〇名で農業中心に生活しています。村の中には、公会堂、幼稚園もあり、毎月第三日曜日には、各種の催しもあり、人間の生き方を学ぶことができる魅力的な存在です。

新しき村 所在地

埼玉県入間郡毛呂山町葛貫
電話〇四九二九(四)一三五五

お知らせ

県立図書館の
書架があなたの
身近に

ため、いろいろ不便があり、これを除くため、このたび、年間を一冊にまとめた「増加目録」を刊行しました。



七八六四

県民のみならず、どこに住んでおられても、県立図書館の本が利用できるためには、その手懸りとなる目録はどうしても欠かせません。今回の目録は、県下の公共図書館などに備えられていますので、希望の本がありましたら、目録で探し出し、気軽に、地元の図書館などを通してお申し込みください。
県立図書館の目録が備えてあるということは、県立図書館の書架がそこにあるということと同じです。皆様のご活用を切に願っています。

おたすねくばさい

河越茶とは？

問 狭山茶と、河越茶は同じだと聞きましたが、その歴史的な関係を教えてください。

答 狭山茶の前身が河越茶だといわれています。入間地方では、鎌倉時代に、茶の栽培が行われていたと伝えられており、室町時代初期の僧侶玄恵の作と伝えられる「庭訓往来」に武州河越は、日本名茶園の五場の一とその名声を、うたわれていま

す。その発祥については、記録や遺跡が残っていないので、祥らかではないが、おそらく僧侶によって河越庄へ、招来され地味の適した河越の地で栽培されるようになったと思われる。その後室町期以降、相次ぐ戦乱のために茶園は全く荒廃し、野生化してわずかにその種を保っていたというふうでした。川越藩主柳沢吉保が元禄時代に三富(現三芳町)の多福寺境内に茶の栽培を行ったといういいつた

えもありですが、河越茶の本格的な再興は寛政年間にはじまり、宮寺郷の人吉川温恭(現入間市)村野盛政(東京都瑞穂町)等が本格的な製茶に着手し又その後栽培地域も官寺郷を中心に狭山丘陵地帯に拡大されてゆき、河越茶にかわって狭山茶の名がひろまっていたのです。

資料「狭山茶業史」大護八郎著 埼玉県茶業協会。「埼玉大百科事典」埼玉新聞社

- 原爆被害対策協議会 昭36
原爆被害者問題 田沼肇 新日本出版社 昭46
被爆二世—その語られなかった日々と明日— 広島記者団被爆二世刊行委員会 時事通信社 昭47
偏見と差別—ヒロシマそして被爆朝鮮人 平岡敬 未来社 昭47
反原爆—長崎被害者の生活史—(正) 統 石田忠編著 未来社 昭48、49
被爆の思想と運動—被爆者援護法のため— 伊東社 新評論 昭50
運動
核権力—ヒロシマの告発— 金井利博、三省堂 昭45
原水爆禁止運動 今堀誠二 潮出版社 昭49
原爆から原発まで—核セミナーの記録— 上・下 原爆体験を伝える会編 アグネ 昭50
広島原爆とアメリカ人—ある牧師の平和行脚— 谷本清 日本放送出版協会 昭51
広島・長崎30年の証言上・下 未来社 昭50、51
原爆・原発 池山重朗 現代の理論社 昭53
原水爆禁止運動はいま 熊倉啓安 労働教育センター 昭53
核・天皇・被爆者 栗原貞子 三一書房 昭53
文芸
句集被爆の井 小田島迷子 水明発行所 昭35
にんげんをかえせ 峠三吉全詩集 風土 昭45
社 昭45
広島詩集 1965 広島詩集編集委員会編 広島詩人協会 昭40
日本原爆詩集 大原三八雄他編 太平出版 昭45
夏の花 原民喜 晶文社 昭45
地の群れ 井上光晴 河出書房新社 昭38
審判 堀田善衛 岩波書店 昭38
樹影 佐多稲子 講談社 昭47
刻を曳く 後藤みな子 河出書房新社 昭47
祭りの場 林京子 講談社 昭50
傷む八月 亀沢深雪 風媒社 昭51
ピカドン 丸木位里・丸木俊 ろぼのみみ編集部 昭51
ギヤマン・ビードロ 林京子 講談社 昭53
ヒロシマ・ノート 大江健三郎 岩波書店 昭40
店 昭40
原爆民衆史 長岡弘芳 未来社 昭52
屍の街 大田洋子 冬芽書房 昭25
ヒロシマわが罪と罰—原爆パイロットの苦悩の手紙— C・イーザリー、G・アunders 筑摩書房 昭37
永井隆全集 講談社 昭46
作品集八月六日／＼を描く 1・2 文化評論出版 昭45、46
ヒロシマ J・ハーシー 石川欣一他訳 法政大学出版局 昭24
灰燼の光—燃えるヒロシマ R・ユンク 原田義人訳 文芸春秋社 昭46
はだしのゲン 1・4 中沢啓治 汐文社 昭50
原爆の図 丸木位里・俊 田園書房 昭42
子どものために
おぼけ雲 来栖良夫 新日本出版社 昭44
いしづみ 広島テレビ放送編 ポプラ社 昭45
八月がくるたびに おおえひで 理論社 昭46
野の花は生きる—リディツエと広島の花たち— いぬいとみこ 童心社 昭47
広島姉妹 山本真理子 岩崎書店 昭48
夕焼けの記録 大野允子 国土社 昭48
子どもと父母と教師が書いた原爆の記録 1・3 国際平和教育研究会編 教育出版センター 昭50
ひーちゃんにいった—広島少女たちの遺書— 大野允子 ポプラ社 昭52
つるのとぶ日—ヒロシマの童話— 大野允子他 講談社 昭52
光の消えた日 いぬいとみこ 岩波書店 昭53